

## ■ プラスチックをめぐる さまざまな動き

～プラスチック処理について検討するうえで、踏まえておきたいこと～

### 1 進む地球温暖化対策

#### <世界・国の動き>

##### ●SDGs（持続可能な開発目標 国連総会採択 2015年）

→2030年までに達成したい17の世界目標と169の達成基準などを定めたもの

地球温暖化に特に 関連がある目標	目標7	エネルギーをみんなに。そしてクリーンに
	目標8	生きがいも経済成長も
	目標12	つくる責任、つかう責任
	目標13	気候変動に具体的な対策を
	目標14	海の豊かさを守ろう
	目標15	陸の豊かさも守ろう

##### ●パリ協定（COP21（第21回国連気候変動枠組条約締約国会議）2015年）

→『世界の平均気温上昇を、産業革命（18世紀～19世紀）以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする』ことを定めた、すべての国が参加する公平な合意で、地球温暖化対策の中核となるものです。

##### ●IPCC 1.5℃特別報告書（2018年）

→IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル・各国の科学者による気候変動の研究成果を整理報告する組織）が、世界の平均気温が1.5℃上昇した場合の影響と、必要な対策についてまとめ、1.5℃以下に抑える合理性、必要性が示されました。

##### ●国の温室効果ガス排出量削減目標値の修正（4月22日 首相宣言）

→2030年の温室効果ガス排出量を、2013年と比較して26%削減から46%削減へと大幅に修正、さらに50%の高みを目指すことが表明されました。

##### ●プラスチック資源循環戦略（2019年5月）※環境省ほか関係9省庁

→プラスチックの資源循環を総合的に推進するため、関係省庁が横断的に取り組むこととなっています。

#### <プラスチック資源循環戦略 基本原則>

- ① ワンウェイ（使い捨て）の容器包装・製品をはじめ、回避可能なプラスチックの使用を合理化し、無駄に使われる資源を徹底的に減らす
- ② 持続可能性が高まることを前提に、プラスチック製容器包装・製品の原料を再生材や再生可能資源（紙、バイオマスプラスチック等）に適切に切り替える
- ③ できる限り長期間、プラスチック製品を使用
- ④ 使用後は、効果的・効率的なリサイクルシステムを通じて、持続可能な形で徹底的に分別回収し、循環利用（リサイクルによる再生利用、それが技術的・経済的な観点等から難しい場合には熱回収によるエネルギー利用を含む）を図る

## <経済界の動き>

### ●責任投資原則 (2006年) 持続可能な保険原則 (2012年) 責任銀行原則 (2019年)

→SDGs やパリ協定の達成に向けた投資を促すための指針(基準)。世界の銀行や保険会社、企業などが参加(採用)し、持続可能な社会づくりに寄与する事業などに、資金が循環する経済(循環型経済)を確立するための仕組みです。

### ●企業の対応例

スターバックス …2020年までに店舗でのプラスチックストロー廃止

すかいらく …2020年までに石油由来のプラスチックストロー廃止、現在はトウモロコシ原料のバイオマスストローを使用

日本マクドナルド …プラスチックカップを紙製カップに変更、子供向けプラスチック製おもちゃのリサイクルなど

三井住友海上保険 …社員食堂での使い捨てプラスチックの使用廃止

ボルボ …2025年までに自動車のプラスチック部品の25%をリサイクル素材へ

### ●代替プラスチックへの移行

「プラスチック資源循環戦略」の策定を受け、代替プラスチックへの移行が進められています。

- ・世界の総プラスチック生産量 3.8億トン …うち容器包装用途の割合 36%
- ・世界の総バイオプラスチック生産量 211万トン …全体の約0.5%

※生分解性プラスチック(自然界で二酸化炭素と水に分解されるプラスチック)  
※バイオマスプラスチック(植物など再生可能な資源でできたプラスチック)

### ●中国やアジア諸国の廃プラスチック輸入規制

→日本が輸出していた廃プラスチックの多くが停止、国内の廃プラスチックのストック量が増加傾向となっています。

※中国 …2018年12月までに廃プラスチックなどの輸入を停止  
※その他 …東南アジア、南西アジア諸国(タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシア、インドなど)が廃プラスチックの輸入を規制

## <まとめ>

### ●世界で地球温暖化対策が進む

→平均気温の上昇を1.5℃以下に抑えるため、脱炭素や温室効果ガス排出量の削減など、世界各国が目標や基準を定め、その達成に向けた努力が始まっています

### ●日本はプラスチックの循環戦略を定めた

【作る側の責任】

- ①量を減らす ②代替品への切り替えを進める

【使う側の責任】

- ③長く使い続ける

- ④分別と循環利用を進める(技術面・経済面から難しければエネルギー回収)

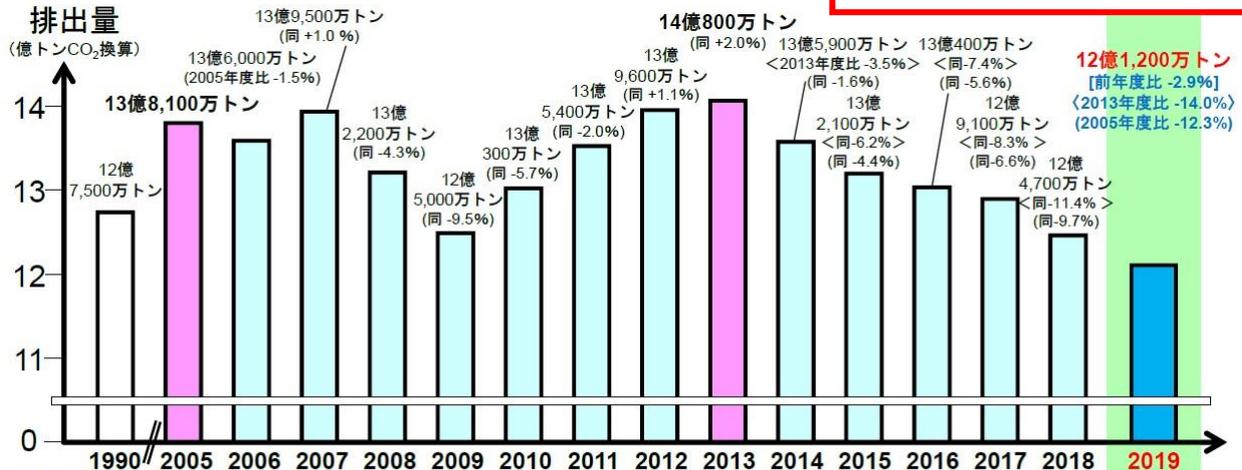
### ●経済界では、脱プラスチック(脱・化石燃料)に向けた動きが加速化

→脱炭素への資金の流れ(循環型経済)、企業の対応、廃プラスチック輸入規制など

## 2 日本と宮代町の状況

### <日本の二酸化炭素 総排出量の推移>

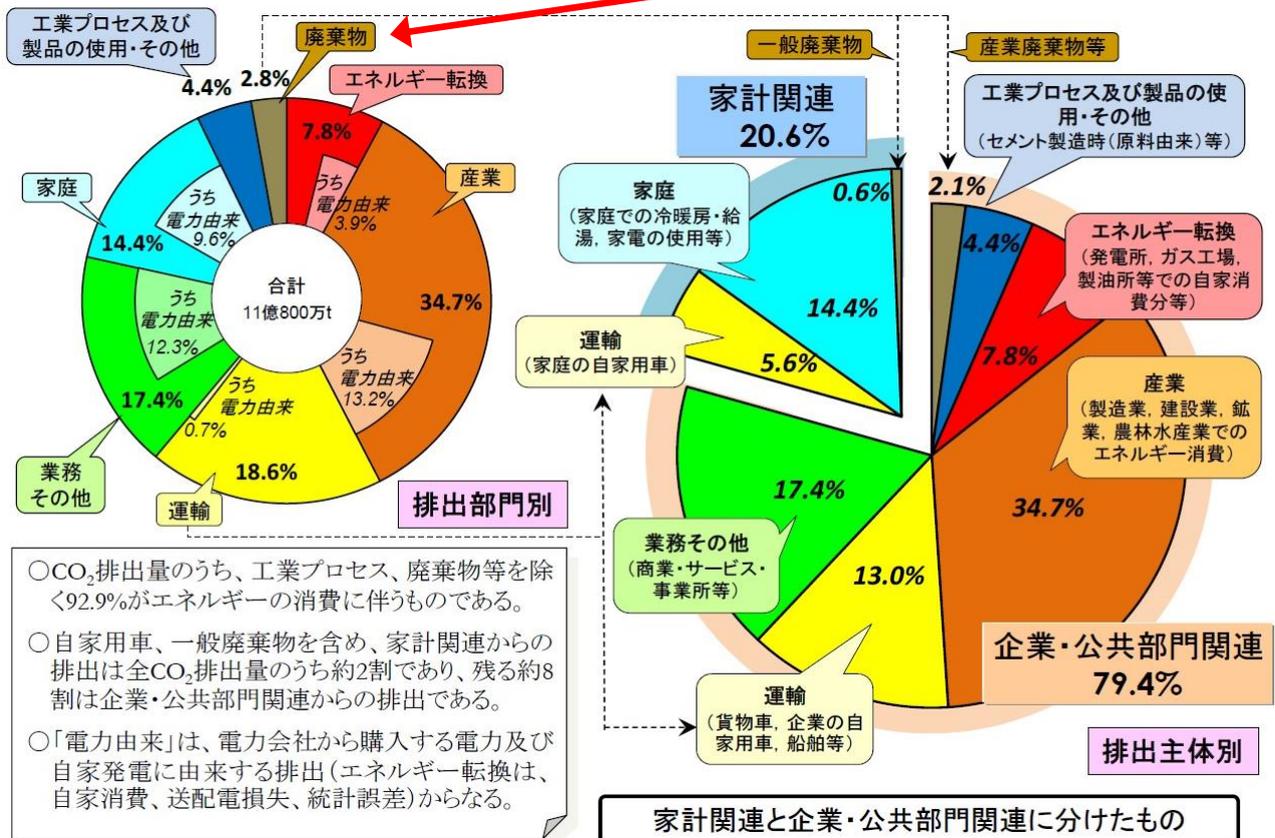
日本の二酸化炭素の排出量は  
2013年以降減少が続いている



注1 「確報値」とは、我が国の温室効果ガスの排出・吸収目録として条約事務局に正式に提出する値という意味である。今後、各種統計データの年報値の修正、算定方法の見直し等により、今回とりまとめた確報値が再計算される場合がある。  
 注2 今回とりまとめた排出量は、2019年度速報値(2020年12月8日公表)の算定以降に利用可能となった各種統計等の年報値に基づき排出量の再計算を行ったこと、算定方法について更に見直しを行ったことにより、2019年度速報値との間で差異が生じている。  
 注3 各年度の排出量及び過年度からの増減割合(「2013年度比」)等には、京都議定書に基づく吸収源活動による吸収量は加味していない。

### <日本の二酸化炭素 排出量の内訳>

廃棄物から出るCO<sub>2</sub>は  
日本全体の2.8%程度



※環境省 2019年度温室効果ガス排出量 より

### <まとめ>

●日本の二酸化炭素の総排出量のうち、廃棄物が占める割合は2.8%

→部門別では産業が最も多く、運輸、業務、家庭と続く

### <宮代町のリサイクル率>

埼玉県がまとめた「一般廃棄物（ごみ）の排出及び処理状況等」の調査結果によると、宮代町のリサイクル率は、町村内では1位、市を含めた順位でも1位または2位のリサイクル率を維持しています。

【平成28年度】	市		町村	
リサイクル	加須市	39.1%	宮代町	39.1%
	朝霞市	34.2%	川島町	32.5%
(リサイクル率)	狭山市	32.5%	東秩父村	32.1%
※県全体 24.5%	桶川市	32.0%	小川町	30.1%
	久喜市	31.5%	吉見町	29.0%

【平成29年度】	市		町村	
リサイクル	加須市	38.7%	宮代町	39.4%
	朝霞市	34.1%	川島町	31.4%
(リサイクル率)	狭山市	32.2%	小川町	28.9%
※県全体 24.0%	桶川市	32.2%	ときがわ町	28.4%
	飯能市	31.2%	吉見町・東秩父村	28.0%

【平成30年度】	市		町村	
リサイクル	加須市	38.4%	宮代町	38.1%
	狭山市	32.7%	川島町	33.3%
(リサイクル率)	朝霞市	32.3%	ときがわ町	29.6%
※県全体 23.9%	飯能市	31.6%	小川町	28.9%
	桶川市	31.4%	吉見町	28.6%

【出典 埼玉県庁 HP】

※日高市は、可燃ごみのほぼ全量をセメント原料化（リサイクル率 99.7%）していますが、ごみの燃焼（焼却）を伴うため、ランキングには含めていません。

### <宮代町のごみの内訳>

資源化されている宮代町のごみのなかで、プラスチックは2番目に大きい割合となっています。

資源化  
3,682t【38.1%】

